

1984, Toshio Senoh leg.; 1♂1♀, ditto, 1. VII. 1984, Shusei Saito leg. (筆者保管).

分布：日本（対馬）；東ロシア（東シベリア，極東ロシア），中国東部，モンゴル，大韓民国.

#### 引用文献

Gyllenhal, L., 1817. In: Schönherr, C.J. (ed.): Appendix ad C. J. Schönherr Synonymiam Insetorum Tom. I. Part. 3.

Sistens descriptiones novarum specierum. Scaris: Officina Lewerentziana, 1817. 266 pp., pls. 5–6.

Mannerheim, C. G. von, 1852. Insectes coléoptères de la Sibérie orientale, nouveaux ou peu connus. Decades tertia, quarta et quinta. Bulletin de la Société Impériale des Naturalistes de Moscou, 25(2) [1853–1854]: 273–309.

Suzuki, W., 2013. Two replacement names in the genus *Ampedus* (Coleoptera: Elateridae). Elytra, Tokyo, New Series, 3: 21.

(2016年6月6日受領, 2016年9月23日受理)

#### 【短報】滋賀県におけるヒメコガシラミズムシの採集記録

滋賀県におけるヒメコガシラミズムシ *Haliphus ovalis* Sharp, 1884 のこれまでの記録は，クロホシコガシラミズムシ *H. basinotatus* Zimmermann, 1924 の誤同定であったと判明している（村上・中西, 2016）. 筆者は，滋賀県南部において真のヒメコガシラミズムシを採集したので報告する. これにより滋賀県に産するヒメコガシラミズムシ属は5種となった.

7exs., 滋賀県大津市, 19-IX-2016, 村上大介採集・保管 (図1).

採集地は，低山地と住宅地に挟まれた溜池である. 水域内の植生は乏しく，堤体はコンクリートで護岸されている. 一部の岸辺に浅場があり，そこでヒメコガシラミズムシを20個体ほど確認した. この浅場では水中にニッポンイヌノヒゲ *Eriocaulon hondoense* が繁茂しており，ヒメコガシラミズムシ属の幼虫の食草とされるシャジクモ科 Characeae もわずかに生育していた. なお，アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* を複数個体確認しており，水生昆虫への悪影響が懸念される.

この溜池は滋賀県で唯一知られるキイロコガシラミズムシ *H. eximius* Clark, 1863 の生息地であるが（村上・中西, 2016），今回キイロコガシラミズムシは数個体しか確認できなかった. ヒメコガシラミズムシ，キイロコガシラミズムシともに今後の生息状況の変化に注意したい. また，周辺地域における両種の分布状況の把握が望まれる.

株式会社ラーゴの平野達好氏に採集地に生育していた水生植物を同定して頂いた. 文末であるが御礼申し上げる.

#### 引用文献

村上大介・中西康介, 2016. 滋賀県産ヒメコガシラミズムシ属について. さやばねニューシリーズ, (22): 23–26.

(村上大介 gynacantha\_japonica@live.jp)

#### 【短報】クシヒゲクロツツコメツキの雄の記録

日本におけるクシヒゲクロツツコメツキ *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir, 1875) の記録は，中根 (1978)，と鈴木 (2016) の2例があるが，いずれも雌で，国内からの雄の記録はなかった. 筆者は，大桃定洋博士からいただいたコメツキムシ類の標本の中に，本種の雄個体を見いだすことができたので，ここに記録しておきたい.

本報告をするにあたり，貴重な標本をご提供いただいた，大桃定洋博士，採集された高橋敬一博士に厚くお礼申し上げます.

1♂, 沖縄県石垣島, 6-7. VIII. 1998, K. Takahashi leg.

雄は雌に酷似するが，触角第4節～10節の分枝はより細長く，第4節の幹部と分枝を合わせた長さは，第2節と3節の合計の2.4倍（雌は1.7倍）であること（Fig. 1参照），前胸背板基部中央部は

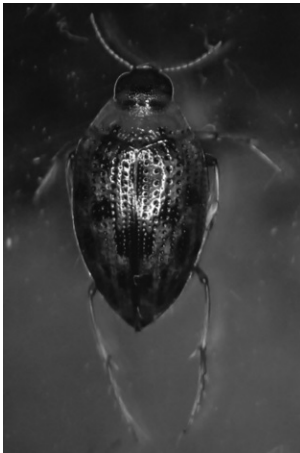


図1. 滋賀県産ヒメコガシラミズムシ.

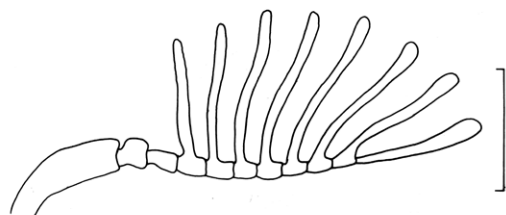


Fig. 1. Right antenna of *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir) from Ishigaki-jima Island, southwest Japan, ♂. Scale: 0.5mm.